

国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」(JEM)の 構成要素に係る安全対策について(案)

平成19年1月30日
安全部会

の方向性が妥当であるか、という観点から実施した。

- (1) 基本的な考え方
- (2) 宇宙環境対策
- (3) 構造
- (4) 安全・開発保証
- (5) 人間 - 機械系設計
- (6) 緊急対策
- (7) 安全確保体制

1. 調査審議の経緯

安全部会では、国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」(JEM)の構成要素について、「宇宙ステーション取付型実験モジュールに係る安全評価のための基本指針」(以下「基本指針」という。)に基づく調査審議を平成19年1月30日に実施したので、その結果を報告する。

2. 調査審議の対象

- (1) 衛星間通信装置(ICS)
- (2) ロボットアームのバックアップドライブシステム(BDS)
- (3) HTV近傍域通信システム(PROX)
- (4) 細胞実験ラック(SAIBO)
- (5) 流体実験ラック(RYUTAI)

3. 調査審議の項目及び観点

調査審議は、「基本指針」に規定された以下の項目について、独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)の安全確保の考え方、安全審査プロセス、課題抽出の手法等が妥当であるか、また、JAXAが実施した安全審査プロセスの中で抽出された課題の対処

4. 調査審議の結果

JAXAの安全確保の考え方、安全審査プロセス、課題抽出の手法等は、的確に設定され、「きぼう」の安全の確保に対し有効に機能している。また、JAXAの安全審査のプロセスの中で抽出された課題については、「基本指針」に示された考え方に基づき、安全検証が実施されており、その対処の方向性は適切である。

以上により、JAXAが実施している「きぼう」の構成要素に係る安全対策は、「基本指針」に規定する要件を満たし、所要の対策が講じられており、妥当であると評価する。